

お祝いの言葉

日本雪氷学会会長 東

晃

日本雪氷学会北海道支部が創立 30 周年を迎えるに当たりまして学会会長として一言お祝いを申し上げ、また学会としての期待と覚悟を新たに致したいと存じます。

北海道支部の創立は昭和 34 年ということですが、私自身が雪氷学会に入会したのが 33 年でありまして、支部がどんな経緯で創立されたのかは存じておりません。雪氷学会自身は昨年 50 周年を迎えましたので、学会の創立後 20 年にして初めての地方支部として北海道支部が出来たということであります。学会の成長段階として当然のこととも申せましょうが、当時としては吉田順五先生ら主導的立場にあられた方々の御苦労があったことと深く敬意を表する次第でございます。



これが恐らく支部創立の原動力の一つになったことであると思いますが、当時の北海道支部会員の研究の水準が非常に高揚していたと考えられます。現在、雪氷学会には東北支部、北信越支部も出来ましたが、支部が作られるというのは、単に会員が増えたから交流の場をふやそうとか、講習会等で近くの会員の便宜を図ろうとか言うだけではなく、地域会員の学術研究のポテンシャルの高まりによるのではないかと思います。この 30 年間の北海道支部の歩みを振り返ってみますと、雪氷学のあらゆる分野で高い水準を維持して学会全体をリードして来たと申せます。今後も会員の皆さまの御努力により、この役割を十分に担って頂けますよう期待申し上げているところでございます。

北海道支部の活動を思い返して、もう一つ申し上げられることは、学会の国際的活動に尖兵の役を果たして来たということであります。戦後、いち早くこのことを実践されましたのは中谷宇吉郎先生でありまして、ご自身昭和 24 年に I C S I の雪結晶分類の会議に出られて諸外国の研究者と親交を結ばれてから、私ども弟子たちに次々と留学やフィールド・サーベイへの参加に送り出して下さいました。支部が創立されましたのは、私が S I P R E に 2 年半行って帰ってきた翌年でありまして、33 年の「雪氷」20 巻 1 号に、その前年カナダのトロントで行われた I U G G 総会の際の I C S I の模様を報告しております。爾来、こういう国際活動報告は北海道支部会員によって多くなされました。そして、今度は逆に外国の研究者を受け入れることも逐次活発になり、今日では殆んど珍しいことではなくなっております。学会としての国際活動の最近のハイライトであります 1984 年の I G S シンポジウムも札幌で行われ、北海道支部が地元として大きな役割を演じたことは皆様の記憶に新しいところでございます。

創立以来半世紀を経た日本雪氷学会の今後を展望することは必ずしも容易ではありませんが、雪国在住会員を殆んど網羅した三つの支部を横糸とし、学会誌や全国大会、種々の情報活動を縦糸として雪国日本を代表する力強い学会として成長してゆきたいものと願っております。只今、学会誌のことを申し上げましたが、この「雪氷」の編集につきましてもこの両 3 年は編集実務を北海道支部の会員に担って頂いております。この機会に若濱五郎編集委員長を初めとする編集委員会の皆さまに厚くお礼を申し上げます。北海道支部の会員の皆さんが産、官、学足並みを揃えて益々学会の発展のためご研鑽いただくよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。